

くれる人が、またひとりふえるかもしれ
ません。」

知重の愛機あいきは、ふたたび離陸りりくした。

「大きい希望をいだく人が、この飛行機を
ながめている人たちの中から生まれるの
だ。その人たちが、これからの時代を進
歩させていく。すばらしいことだ。」

知重は、芝山しばやまの山ちようをまわりながら、
地上の人々に思いきり手をふった。

知重の頭の中には、新しい時代のようす
が広がっていた。

11 つばめと小鳥

つばめは、旅つづを続けてきました。その間にたくさんたくさんのことを学びました。

(学んだことをみんなに知らせて、少しでも役に立てればなあ。)

と、つばめは考えました。

そして、あらしが来る前には、船の回りを低く飛んで、船乗ふねのりたちに

「空を見てください。もうすぐあらしが来ますよ。」

と、きけんを知らせました。

また、旅を続けている鳥たちに出会うと、

「がんばってください。もう少し行くと、いい休けい場所がありますよ。」

と、はげますのでした。

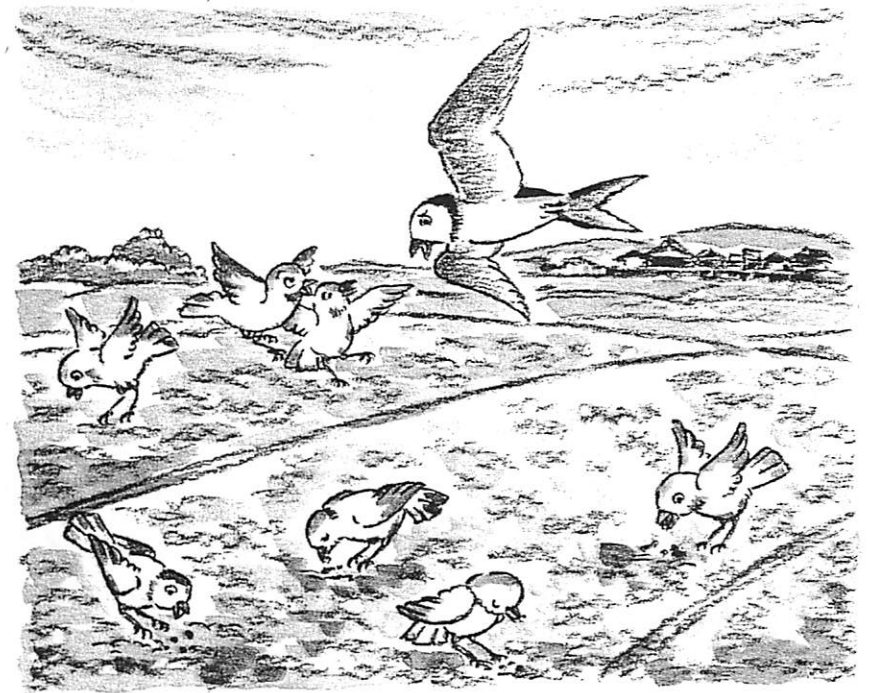
春になりました。農家の人たちは、さっそく田んぼにもみの種たねをまきました。

小鳥たちは、その種を食べようとねらっています。つばめは、小鳥たちに言いました。

「決して種を食べてはいけません。農家の人たちが、これからお米を作るのですから。もし、種を食べたりすれば、その人たちの作るわなでひどいめにありますよ。」

小鳥たちは、つばめをふふんとわらいました。

「そんなことは、わたしたちの勝手でしょ。あなたはわたしたちの仲間じゃないんだから、だまって見



てればいいんだ。」

小鳥たちは、種を食べることをやめませんでした。

ある日、田んぼに行ってみると、あみがはってありました。先頭の小鳥は、

「ふん、こんなものやぶるのはわけないさ。」

と言って、つつこんでいきました。

あみはやぶれるどころか、足にからまってしまいました。

「だから、言ったのに……。」

つばめは、空高く飛びながら、ため息をつきました。

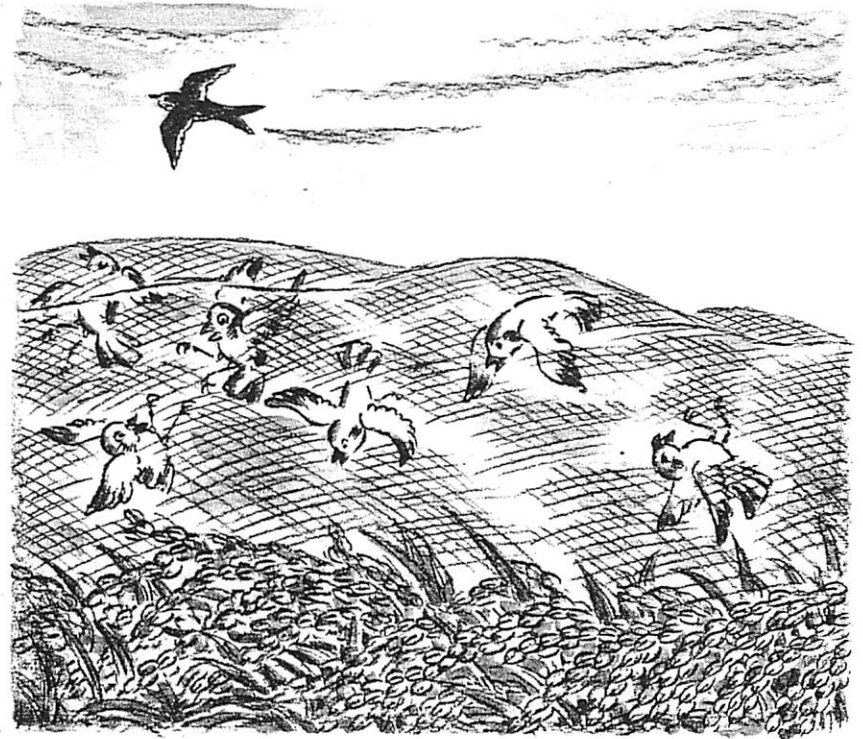
やがて田植えも終わり、梅雨をむかえ、稲はどんどん育っていきました。そして、暑い夏の日ざしを受けて稲の穂がふくらんできました。

待ちかまえていた小鳥たちは、早く穂を食べようと相談をしています。そのことを聞きつけたつばめは、あわてて小鳥たちに言いました。

「よくお聞きなさい。農家の人たちは、米がとれるのを楽しみにしているので

す。今が一番大切な時期だから、じつとがまんしてあげなさい。そうすると、その人たちの持つ道具でひどいめにあうこともありません。稲をかりとったあとであれば、安心して残っている穂を食べられますよ。」

ところが、小鳥たちはやっぱり、つばめの言うことを聞こうとはしませんでした。それどころか、逆に、つばめをからかうように、わざと低く飛び回って、穂をいためたり、食いちぎったりするのです。



そして、そのあとは……。

小鳥たちは、つぎつぎと悲鳴^{ひびい}をあげて、農家の人たちのしかけたわなにかかってしまったのでした。

「だから言ったのに……。」

つばめは、空高く飛びながら大きなため息をつきました。

「どうして、同じ小鳥の仲間でないからといって、わたしの言うことを聞いてくれなかったの……。」

やさしく親切なつばめは、じつと田んぼを見つめていました。そのあと、また、気持ちをしりかえて、どこまでもどこまでも広がる、真っ青な空に向かって飛んで行きました。

11 つばめと小鳥

4-(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。(規則尊重, 公德心)

①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

人が集まって社会が構成され、社会生活が営まれるようになると、その維持、発展のため、ルールが必要になり、成員間での約束ごとやきまりが作られる。約束は、約束し合う者の台意によって成り立ち、きまりはルール化されて明示されたものであれば、慣習として存在するものである。子どもが成長するということは、同時に社会や集団の様々な規範を身に付けていくことでもある。その過程で法やきまりを守る精神をしっかりと身に付けるよう指導する必要がある。

〈子どもの実態について〉

この時期の子どもは、自分で使うものとか、気の合う仲間を決めた約束は、大切にしようとする傾向が強いが、みんなで決めた約束や社会のきまりに対しては守れないことがある。それは、大勢の人々が安心して秩序正しく生活していくためには、みんなが互いに守らなければならない約束やきまりがあり、それは非常に

大切なものであることを十分に理解するまでにはいたっていないからであろうと考えられる。そこで、一般的な約束やきまりについて理解し、それらを守るよう指導していくことが大切である。


〈資料について〉

本資料は、旅を続けたことにより、様々なことを学んだつばめが、小鳥たちに守らなければならないことを忠告するが、聞き入れられず、結局小鳥たちが不幸な目に遭うという内容である。つばめと小鳥たちの行動や考えを共感的にとらえることにより、約束やきまりを守ろうとする心情を育てるのに適した資料である。指導に当たっては、つばめと小鳥たちのやりとりの役割演技を通して、約束やきまりを守るために他人から忠告されたことを素直に受け入れ、それらを守ることの大切さを感じ得るようにしていきたい。

②ねらい

人からの忠告を素直に聞き、約束や社会のきまりを守ろうとする心情を育てる。

板書



つばめと小鳥

〈小鳥たち〉

- ・ほっといてくれよ
- ・知らない鳥が何を言っているんだ
- ・私たちの仲間じゃないのにうるさいな

〈つばめ〉

- ・みんなの役に立ちたい
- ・みんなが幸せになってほしい
- ・農家の人たちに迷惑をかけてはいけない
- ・もう少し待てば安心して食べられる

〈小鳥たち〉

- ・つばめさんの言うことを聞いておけばよかった
- ・農家の人たちのことを考えるべきだった

社会にはルールがある
みんながルールを守ることが大切なんだ

③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 学校や家庭・地域での約束やきまりについて話し合う。</p> <p>(2) 資料「つばめと小鳥」を読んで話し合う。</p> <p>① つばめのしたことや考えたことについてどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人に迷惑をかける小鳥たちはいけないことをしている。 ・人からの忠告は聞かなければいけない。つばめは優しい。 <p>② 旅を続け、たくさんのことを学んだつばめは、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人に迷惑をかけずに、また、人の役に立つように生活していくためには、守らなければならない様々なルールがある。学んだことをみんなに知らせたい。 <p>③ つばめと小鳥の考えや行動について考えましょう。</p> <p>ア 春、田んぼのもみの種を小鳥たちがねらっている場面〈つばめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の人たちに迷惑をかけてはいけない。 ・小鳥たちが人間につかまってしまおう。 <p>〈小鳥たち〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの仲間じゃないのにうるさいな。 ・ほおっておいてくれよ。 ・知らない鳥が何を言っているんだ。 <p>イ 夏、農家の人たちがしかけたわなに小鳥たちがかかった場面〈小鳥たち〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つばめさんの言うことを聞いておけばよかった。 ・農家の人たちのことを考えるべきであった。 <p>ウ つばめがまっ背な空に向かって飛んでいく場面〈つばめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会には、互いに気持ちよく生活するためにルールがあり、そのルールを守ることが大切なんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。(心のノート P67) ・初発の感想を発表する中で共通の問題意識がもてるようにする。 ・約束やきまりを守るための基本は、人に迷惑をかけない心であることに気付くことができるようにする。 ・つばめと小鳥たちの役割演技を取り入れる。 ・異なった立場で演技を行った後、演技者と観衆に感想を求めるというやり方で、相手を心配するつばめの心情と、つばめの言うことを聞こうとしない小鳥たちの心情を浮き彫りにすることができるようにする。 ・小鳥たちとつばめが言い争う場面、小鳥たちがわなにかかった場面、つばめがまっ背な空に向かって飛んでいく場面を演技することにより、互いが心地よい生活をするためにルールがあり、その意味から他人からの忠告に素直に耳を傾けることが大切であることに気付くことができるようにする。 ・日常生活での自分の行動を振り返ることにより、きまりや約束は「お互いの生活をよくするために必要だから守る」という心情を育てることができるようにする。(心のノート P68・69) ・教師の体験談や感想を加えて話すことにより、実践意欲を高めることができるようにする。(心のノート P66)
<p>(3) 自分たちの生活を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活での約束ごと、家庭での約束ごとなどで、注意されてもなかなか守れないことはありますか。 ・つつい廊下を走ってしまう。 ・遊びに出かけるときには、行き先を家の人に言ってから出かける。 	
<p>(4) 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人の忠告に従って行動してよかったと思った体験がありました。 	